

みんなで「とも」の原点をふりかえりました

理事長 西田 良枝



職員総会と入社式

「とも」の前身である「浦安共に歩む会」を立ち上げてから今年で15年。私たちを突き動かし続け、事業展開の原動力となっている障害を持つ我が娘も社会人になりました。とても早く過ぎた15年ですが、私たちを取り巻く環境や「とも」の現実を見ると、時の重さは相応にあると感じます。

2008年度はひとつの大きな節目の年、ということで「とも」は始めて職員総会なるものを行いました。NPO法人としてスタート以来、24時間365日の運営で、職員は、それぞれ違う時間帯に働いているため、一堂に会す機会はなかなか持てず、情報や体験の共有は決して多くないことが日ごろの気がかりです。「とも」は“いっしょに生きる。楽しく生きる”をモットーとしていますが、職員も同じように「同じ時を共に過ごし共有する」機会をこの節目に持てないか…。また、事業数も増えたことから自分が担当していること以外の事業、地域の現状と課題などの把握や、改めて、みんなで歴史を振り返り「とも」の理念を共有し、日々の仕事や活動は何に向かっていたのかを、それぞれが新たな気持ちで考えられる機会となれば…と思い行いました。あわせて、障害を持つふたりを含めて合計11名の新入職員を迎える入社式も行いました。

今年の新規事業

昨年、厚労省プロジェクトで研究を行った地域活動支援センターI型事業「地域活動支援センターとも」と浦安市からの委託事業「浦安市夜間安心ホームヘルプサービス（随時・定期）」が始まりました。「地域活動支援センターとも」は地域の人すべての「エンパワメントの拠点」として、障害を持つ人たちの主体性と地域の人たちとのコラボレーションで地域が変わっていき、共に生きる社会の実践ができるように取り組んでいきたいと思えます。（2・3ページ参照）

また、浦安市の夜間安心ホームヘルプサービス事業の内容は、「とも」が7年間行ってきたことと同様です。夜間、緊急時の対応では、例えば、定期訪問のように時間で予定が組めないような排泄介助や車椅子からの転倒など。「とも」では予算がないため、職員が家に緊急携帯を持ち帰り、枕元に置いて眠り、真夜中にコールがあれば飛び起きて出勤、翌日も通常の勤務をこなしていました。定期訪問も、夜中の2時、4時など利用者さんの必要な時間に冬の日も雨の日も自転車でケアに回っていました。

浦安市の制度として普遍的なものになったこと、浦安市の事業となり、夜間専任のケアスタッフやオペレーターを置き安定したサービスの仕組みができたことは、ほんとうに素晴らしいことです。地域生活には夜間を含めた24時間365日のケアが必要です。それがあれば、住み慣れた自宅での生活をあきらめなくてもいいのだ、ということは大きな安心だと思います。

浦安市地域自立支援協議会設立・障がい者週間記念フォーラム

「この街で生き生きと輝きながら暮らしていくために

～障害者自立支援法施行1年を振り返る～」開催

前日の雪の影響を心配しましたが、フォーラム開催当日2月10日は晴天。厳しい寒さの中、総勢87名の運営スタッフが朝7:30に市役所本庁舎に集合し、開演準備を行いました。実行委員、浦安市地域自立支援協議会の委員はもとより、応援部隊として、がじゅまる、東京福祉専門学校の学生さん、おもちゃライブラリー「ぼっぼ」の皆さんの協力を得て、大きなアクシデントもなく、フォーラム「この街で生き生きと輝きながら暮らしていくために～障害者自立支援法施行1年を振り返る～」を開催することができました。来場者は300名。大ホールホワイエには、10団体が出展し、授産製品の販売や団体PRなどを行いました。

午前中は、最新の制度情報を厚生労働省の障害福祉課長、蒲原氏よりお話いただきました。続いて、社会福祉法人「むそう」理事長戸枝氏より、地域生活支援の仕組みを、入所施設が24時間抱え込んでいる「安心感」に負けないぐらい、確固たる仕組みにしていく必要性を説明しておられました。午後の部は、当事者シンポジウム、支援者シンポジウムがあり、浦安在住の障がいを持つ当事者の方たちが、地域で培った友人とのつながりの大切さ、精神の病を抱えながら社会復帰していった道のりを語り、登壇者の一人であった高梨氏は、「障がいをもつ人は、日々の生活に、こんなに頑張らなければならないのです」とコメントされ、障がいがあるから“頑張らなくてはならない現状”について疑問を投げかけていました。

このフォーラムで、私達は何を学んだのかフォーラム開催の中心的な役割を担った実行委員が集い、3月17日、最後の実行委員会が開催されました。実行委員からは様々な意見が聞かれました。「チラシをポスティングしていたら、一般の人から“障がい者の自立ってどういうこと？”と聞かれ、うまく答えられず“とにかくフォーラムに来てください”としか言えなかった。多くの人に理解してもらうには、自分の勉強不足を実感した」「このフォーラムの準備に携わることで、障がいのある人の雇用を考えるきっかけをもらった。」振り返りの実行委員会では、このような意見交換が行われました。フォーラムで、地域自立支援協議会が形骸化する懸念があると指摘されましたが、2年目を迎える浦安市地域自立支援協議会をどのように活性化していくか一事務局を担う私達の大きな課題です。

エンパワメントを進める地域活動支援センターのあり方

－厚生労働省・障害者保健福祉推進事業による調査研究事業から－

「とも」では、平成19年度障害者保健福祉推進事業の補助を受け、障害者自立支援法によって新しく開始された「地域活動支援センター」の調査研究事業を行いました。

地域活動支援センターは、現状ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ型に分類され、それぞれが概ね次のような事業を行っています。精神障害者地域生活支援センターの障害者の憩いの場から移行したⅠ型。趣味的活動やリハビリ、入浴サービスを行うデイサービス事業から移行したⅡ型。小規模作業所から移行したⅢ型です。アンケートや現地調査で分かったことは、それぞれ事業を行ってきた経緯の延長として地域活動支援センターを運営しているため、実態は様々であることでした。

わたしたちは、地域活動支援センター固有の役割はどのようなものなのかを明確にしたいと考えました。研究事業の中で検討された地域活動支援センターの役割は、障害者自立支援法の理念である「自立と共生」を進めるものであると考え、次のような事業内容を提言することとなりました。

●自立に向けた本人の主体性を形成する役割

現代において「自立」は「自己決定」「自己選択」と理解されています。自己決定をするためには、自分自身への信頼や自信、人との関係への安心感、すべてのものから選ぶことができる自由が必要です。これをエンパワメントとするならば、地域活動支援センターは、障害のある本人がスタッフになることも含めて、本人を主体とした活動を通じてエンパワメントを進める役割が大切であると考えます。

●「共生」を進めるための地域の感受性を高める役割

障害のある人もない人も、すべての人がともに生きる社会を実現するためには、障害福祉サービスや関係者だけで本人の育ちや学び、生活を抱え込んでしまう従来の仕組みから、一般社会の中で育ち、学び、働き、生活できる仕組みへの転換が必要です。地域活動支援センターの活動は、地域社会の人たちと当事者を結びつけ、地域活動支援センターをステップにして社会に参加していくことができる橋渡し役になることが必要です。このような活動を通じて、対等な関係でともに生きる社会をつくっていかうとする、地域の感受性を高める役割を果たすことが必要であると考えます。

浦安市では、平成20年度から新たに地域活動支援センターを開始することになり、「とも」が受託することとなりました。今回の研究事業の成果を現実の実践として行っていきたいと思っています。

「地域活動支援センターとも」が4月1日より始まりました

「地域活動支援センターとも」は、障がいのある人もない人も誰もが、地域の中で自分の持っている力を発揮し、自分らしく生きていけるような地域を目指して活動を行っています。

センターは、①利用者一人ひとりが主体的に考え活動できるようなプログラムを、利用者とともに創り出していく活動、②安心して過ごせる空間（居場所）を通して、新たな仲間作りの機会の提供、③障害があってもその人にしか出来ないことを活かし、働くことが出来る場としての作業・販売を行う活動等、当事者主体のエンパワメントを促進するための活動拠点です。

といっても、「何をやってるの？何が出来るの？」と言われるかもしれません。ですので、始めはいくつかのプログラムをデモンストレーション的に始める事にしました。

現在始まっている活動は、地活で販売する物品の整理と値つけ、オリジナル商品の企画・開発（現在のサツマイモを使った芋スティックの試作をしています）、旧ともサークル活動、音楽療法、土曜日のランチタイム（第1回目はお好み焼きを作りました）です。又、日頃交流する時間が少ないボランティアさん同士の交流を図り、地活を一緒に作っていくためにもボランティアさんの「たまり場」としても使ってもらいたいと思っています。

開所したとはいえ、「地域活動支援センターとも」はこれから作り上げていく段階です。皆さんと一緒に作っていきたく思いますので、気軽に顔を出して、お茶でも飲みながら、いろいろなアイデアを出してください。

利用出来る方は、16歳以上の障がいのある方（種別は問いません）、手帳がなくても一人で地域と関わっていくことが難しい方です。地域へ出て、社会と繋がっていくための第一歩として地活を利用してください。

又、ボランティア活動を始めたいけど、何をしたらいいのか分からない、自分ができるか不安だという方々も、一緒にプログラムに参加したり、リサイクルショップの物品整理・値つけ作業等、自分のできること、こんなボランティアをしてみたいというものを見つけてください。

ボランティア大募集！

「地域活動支援センターとも」は、障がいのある方が、たくさんの地域のボランティアの方と一緒に活動を作っていく事を目指して運営しています。そこで、障がいのある方と一緒に活動してみたい方、大募集です！

まずはご連絡ください
地域活動支援センターとも
電話 047-304-8810

スタッフ紹介

新入職員をむかえ新事業も始まりさらなるパワーアップを目指します

浦安市障がい児・者総合相談センター

浦安市障がい児総合相談支援事業委託相談事業所である、「障がい児・者サポートセンターとも」の名称が、平成20年4月1日より「浦安市障がい児・者総合相談センター」に変更されました！

4月から新しいメンバーが加わりました。事業所名称も変わり、心機一転、相談チーム一丸となって、地域から頼りにされる総合相談窓口として、浦安を走りまわりたいと思います。どうぞ、宜しくお願いします！

地域活動支援センターとも

竹谷（弘） 様々な現場で利用者の方々と一緒に過ごす機会があります。「地域活動支援センターとも」でもたくさんの方との出会いを楽しみにしています。みんながちょっとの時間でも地活に寄っていきたいと思える場所にしていきたいです。

飯島 2年ぶりにがじゅまるからともに戻ってきました。地域活動支援センターI型という先駆的な事業に関わるといふ不安もありますが、職員、利用者さん、地域の人たちと一緒に、楽しく、創り上げていきたいと思っています。

荒木 たくさんの方と出会えることをとても楽しみにしています。みなさんが‘ほっと’できる雰囲気を大切にしたいと思っています。おいしいコーヒー、お茶、紅茶を用意してみなさんのお越しをお待ちしています！！

竹谷（知） たけやともひろです。ちかつではたらいしています。ちかくにきたらよってください。ちゅうしゃじょうのきかいがすきです。「ちゅうしゃけんをいれてください。りょうきんは…」とよくまねをしてあそんでいます。

西田（江） はじめまして。にしだえりです。としは18才です。すんでいるところはみはます。ともだちとえがおでしごとをがんばります。よろしくね

就労支援事業

遠藤 市の施設の中でどもの窓口として頑張ります。

D・O 今後のともが躍動していけるよう頑張ってます。

K・M 人との接し方、コミュニケーションを心がけて頑張ります。

N・M リハビリをして再就職を目指します。

H・O がんばります。

事務

杉田 今年子どもと過ごせる時間を作ることに一生懸命！

T・O 予約センターの担当をさせて頂いています。よろしくお祈りします。

K・B 今年体を鍛えて若返りをはかります。

T・K 一時ケアの窓口として頑張ります。

療育事業

地域の中で障害を持つ人たちもたくさんの経験や体験をし、小さい時はもっている力を伸ばせるように、そして余暇に繋がることを見つけられ、豊かな生活に結びつくように、8つの療育事業を展開しています。見学や体験もできますので、興味のある方はぜひお問い合わせ下さい。

イルカスイミング H・Y 水慣れから始めた会員の皆は、それぞれのペースでグループに別れて楽しく参加しています。

卓球教室 S・Y 卓球教室ともピンポンは一人ひとりのペースや伸びに合わせてオーダーメイドの練習をしていきます

ムーブメント療育 U・R 子どもたちの目の輝きがパワーの源。皆で力を合わせムーブメントウェイブを起そう！

クレヨン教室 S・H クレヨン教室はその子に合わせて、何度も繰り返し勉強しています。先生と楽しく、やる気をもって取り組めるよう頑張ろうね

生活塾 竹谷（弘） いつも微笑ましく思えるのが、子ども同士の関わり。個々の力を伸ばすこと、集団の力で伸びること、両方の視点で取り組みます。

造形教室 H・Y 何かを続けていくことの大切さを感じています。身体・気力がある限り、私自身も続けていきたいです。

療育・手づくりパン教室 M・J 五感をフルに使ってわくわくパンづくり！出来上がれば小さなパン屋さん気分です。お父さんとの参加も大歓迎！

音楽療法 竹谷（弘） 音療が終わって出てくる子どもたちの顔は、どこか皆スッキリしています。専門性の高さ、音楽の持ついくつもの効果に驚かされてばかりです。

常勤ケアスタッフ



- 黒田 今年度からリーダーケアスタッフとなりました。男性スタッフ大募集です。
- 和田 若いパワーに負けなようがんばります。
- 三竿 花の47年組、最近涙腺のゆるい36歳。してみたい髪型：アフロヘアー
- 田尻 「初心忘れるべからず」だと感じる新年度です。手さぐりの新生活もうまく軌道にのりますように…。
- 山口 少しずつ成長していきたいと思います。
- 百海 みなさんの笑顔に支えられながら、ともで働かせて頂いています。これからも頑張ります。
- 佐藤 2年目に入り、昨年以上にケアの質を上げられるようにがんばっていきたくです。
- 中谷 とともに、今日より明日へ
- 櫻井 未経験からスタートし、3ヶ月がたちました。今は支えてもらうばかりですが、これからたくさんの人を支えられるように頑張ります。
- 内田 楽しい時間を共有したいです。
- 岡田 楽しく精一杯の気持ちでがんばっていきたくと思います。
- 荒木 ともで働かせて頂き3年目になりました。今年度も楽しく笑顔で頑張りたいと思います。
- 江上 今年の4月からともで働かせて頂くことになりました。精一ぱいがんばりたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。
- 田久保 ご迷惑をおかけしますが、いろいろな事を覚え頑張っていきます。
- 多田 福祉事業は始めてですが、自分なりに勉強して利用者の方にたくさん楽しんでもらい、ともに成長していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。
- 林 今年専門学校を卒業して入社しました。これから多くのことを学び頼りになるケアスタッフになれるよう頑張ります。宜しくお願ひします。
- 日下 24時間365日の安心をお届けできるよう頑張ります。



非常勤ケアスタッフ

- N・Y 年々、体力に自信がなくなりつつ…みんなと仲良くやっていけたらナと思います。
- K・Y 安全、安心、安楽なお世話を信条にしています。
- K・H 少し年齢をとっていますが、皆さんと遊ぶのが大好きです。よろしくね
- K・F ともで皆さんの笑顔に接することができ、とても嬉しいです
- M・M 元気一杯の牧野です、よろしくお願ひいたします。
- H・I 友達に若さのパワーをもらいがんばっています。
- Y・H 一日一日、一瞬一瞬大切にしていきたいと思ひます。
- M・T 「そばにいて、心が安らぐ！」そんな人になれたらいいな…
- M・Y 利用者さん一人一人の現状を把握し、こちよいかを心がけたい
- Y・S がんばります。よろしくお願ひします。
- E・S たくさんのお出ひがあつて、私の財産になりました。
- M・T 子供たちの可愛らしさが日々発見できるので、続けさせていたひいています。
- N・M 初心を忘れず利用者さんの立場に立つたケアを心がけ、明るく楽しく仕事をしていきたいです。
- U・Y スタッフになり一年が経ちました。これからもみなさんとたくさんのお出ひを共有していけたらと思ひています。
- A・N 利用者さんから学ぶことがたくさんあり、楽しく仕事をさせていたひいています。
- A・K 笑顔が大好きです！よろしくお願ひいたします。
- S・S 12月からともで働かせて頂ひいています。ケアをしていて何よりも嬉しいことは利用者さんのお出ひを見ることです。これからもたくさんのお出ひが見れるよう頑張っていくたいと思ひます。
- M・T はじめまして。地元で頑張ります。よろしくお願ひいたします。
- H・A 色々な方々と触れ合えて、とても勉強させていただき楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- S・K 毎日が驚くほどアツという間に過ぎています。これからもよろしくお願ひします。
- N・U 色々な人と知り合ふことが出来、楽しく仕事をさせて頂ひいています。
- M・T 強くて優しいスタッフになりたいです。
- T・Y 一生懸命頑張っていくたいので宜しくお願ひします。



〈編集後記〉身体が思うように動かせなくなって夜間のケアをお願ひする生活。でも夜眠れることで精神的には氣力が戻ってきました。やっぱり知らぬ間に無理を重ねていたのかなあ…。睡眠はほんとうに大切と実感しています。【N】